『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり

小説を活かした〝松山ならでは〟のまちづくり

小説に描き込まれたメッセージを基本理念に、市内各地に点在している小説ゆかりの史跡や、地域固有の文化資源を発掘・再評価し、結びつけて、まち全体を屋根のない博物館＝フィールドミュージアムに見立てたまちづくりを行っています。

屋根のない博物館

フィールドミュージアム構想

松山市内には、小説『坂の上の雲』ゆかりの史跡や地域固有の貴重な資源が数多くあります。これらの地域資源をひとつの作品にたとえ、市内全体を「屋根のない博物館」と捉え、回遊性の高い物語のあるまちを目指すのが、フィールドミュージアム構想です。

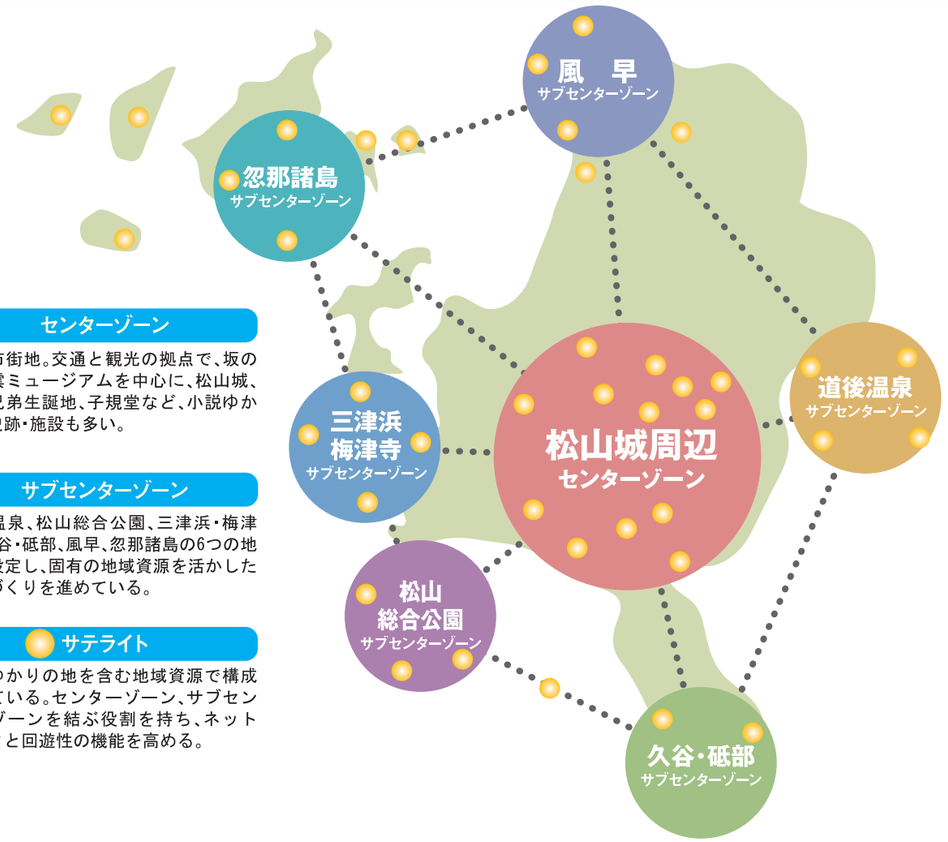
具体的には、松山城周辺をセンターゾーン、そのまわりに６つのサブセンターゾーンを配し、それぞれのゾーンの魅力を地域住民が主体となって磨き上げる“松山らしさ”を活かしたまちづくりを進めています。

『坂の上の雲』のまちづくり

小説『坂の上の雲』の３人の主人公が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望をまちづくりに取り入れたのが、『坂の上の雲』のまちづくりです。

単に新しいものを作るだけではなく、地域で古くから培ってきた、既存の地域資源を最大限活用し、主人公たちのように夢や希望を持ちながら、官民一体となって「物語」が感じられるまちを目指す、それが全国ではじめて取り組む「小説を活かしたまちづくり」です。

『坂の上の雲』フィールドミュージアム（イメージ図）



センターゾーン

中心市街地。交通と観光の拠点で、坂の上の雲ミュージアムを中心に、松山城、秋山兄弟生誕地、子規堂など、小説ゆかりの史跡・施設も多い。

サブセンターゾーン

道後温泉、松山総合公園、三津浜・梅津寺、久谷・砥部、風早、忽那諸島の6つの地域を設定し、固有の地域資源を活かしたまちづくりを進めている。

サテライト

小説ゆかりの地を含む地域資源で構成されている。センターゾーン、サブセンターゾーンを結ぶ役割を持ち、ネットワークと回遊性の機能を高める。

進化するまちづくり

～回遊性の高い物語のあるまちを目指して、整備を進めてきました～

道後温泉本館周辺

ゆったりゆっくりまち歩きが楽しめます

地元住民のワークショップでの提案により、道後温泉サブセンターゾーンの中心となる道後温泉本館周辺は生まれ変わりました。本館周辺の道路をつけ替え、車道と歩道を分離。本館出入り口前は石畳の広場となり、そぞろ歩きやイベントにも最適です。リニューアルした本館南側の「道後温泉　空の散歩道」では足湯で寛ぎながら保存修理工事中の本館の様子を一望することができます。

※保存修理工事中のため、実際の見え方と異なる場合があります。

ロープウェー街

和・なごみをテーマに個性的な魅力ある街並みを創造

センターゾーンの入り口に位置し、ロープウェイ駅舎や道後温泉サブセンターゾーンへの回廊ともなるロープウェー街は、平成18年にリニューアル。商店街の人たちが主体となり、通りに面した建物のファサード（建物正面）の整備や電線類の地中化、道路景観整備などを行い、統一感ある新しい街並みとして生まれ変わりました。

まち歩きのサイン

案内サイン

案内板と連携して、市民や観光客を目的地に誘導していくために、方向表示と目的地までの距離を記したサインを設置しています。

案内板

市民や観光客の行動起点となるJR松山駅・松山市駅・道後温泉などに、広域情報がわかる総合案内サインを配置。また、市内の主動線とそこから分岐した大きな通りには、概ね500m間隔で地区情報サインを配置し、回遊できるようにしています。

解説板

小説ゆかりの施設や跡地に解説板を設置しています。当時の写真や新聞の挿絵、小説の引用文、解説などを記載して、ゆかりの地をわかりやすく紹介しています。このパンフレット内の🔺マークのある所に解説板があります。

まつやまインフォメーション

交通結節点や観光スポットなどに設置された情報端末施設（愛称：タウンボード）で、動画による「目で追い、目で楽しむ」地域の旬な情報を発信しています。